

R8年3月 ばら組ドキュメンテーション「手伝って」

散歩の支度を自分で行っていたAちゃん。

上着を羽織ることはできたものの、ファスナーを差し込むことに苦戦している様子だった。これまでも「できない時は言ってね」と声を掛けていた。しかしうまくいかないと気持ちが高まり、言葉で伝えるのが難しい姿も見られていた。



しかし最近では、まず自分で挑戦し、難しければ「手伝って」と保育者に言葉で伝えることができるようになってきた。

☆考察☆

Aちゃんは“自分でやりたい”という思いが強いが、自分1人では難しい場面でも助けを求めることはなかなかできずにいた。しかし今回のように、困った時には「手伝って」と言葉で表現する姿から“言葉による自己表現の育ち”が感じられる。

今後も子ども達の“自分でやりたい”等の気持ちを大切に見守りながら、様々な場面で自分の思いや要求を言葉で表現できるように援助していきたい。